

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市縄文の森広場
2	指定管理者	(公財) 仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年(2017)4月1日～令和4年(2022)3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 30,907人(前年度比 102.7%) 平成29年度30,098人 平成28年度29,362人 平成27年度31,690人
		《事業》 展示事業: 常設展(山田上ノ台遺跡の展示及び野外展示) 企画展4回(年間テーマ「仙山交流」) 研究・調査事業, 普及啓発事業: 縄文体験, 発掘体験, 講座, イベント
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 62,674千円 (62,655千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 642千円 (672千円) ・ その他収入 1,538千円 (1,609千円)
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 平成30年12月に施設利用者アンケート調査を実施している。 小・中学校, 町内会等の代表者の出席による運営懇談会を2回開催している。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた運営上の基本方針として、「人間と環境」を考えるランドマークとなることを目指すこととしており、職員が十分理解しているほか、利用者にも周知している。また、資料の保管、調査・研究、展示・普及啓発事業等とおして、本市の縄文時代を中心とした文化財の保護、歴史文化の普及啓発と向上等の施設目的を達成している。	27/27
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館及び指定管理料の執行状況等も適正である。また、個人情報の保護や情報セキュリティ対策も十分である。事故防止等についても適切に対応されており、対応マニュアルやチェックリスト等を用い、安全管理やサービス内容等をチェックし、ミーティング等により職員間の情報共有を図っている。	24/24
III	施設・設備の維持管理	建物や設備、備品が適切に維持管理され清潔さと安全性が確保されており、利用者が快適に利用できる状態が保持されている。仙台市環境行動計画に則り、省エネ・リサイクルに努めている。さらなる安全性の向上について、過去の事例等を踏まえて改善と再発防止対策が共有されている。	24/24
IV	サービスの質の向上	職員の接客マナー・受付状況ともに良好である。ホームページ・フェイスブックやパンフレット等による利用情報の積極的な提供とともに、利用者へのアンケートを実施している。また、施設のサービス水準は高い水準で確保されており、必要な研修への参加も行っている。苦情等があった場合には、対応策等についてその都度掲示するようにし、利用者に公表している。	28/28
V	施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理すると共に、事業計画書に従って適切に事業を実施している。また、地域と連携したアウトリーチ事業への積極的な取り組みを行っており、近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築しつつ発展的に事業を展開している。さらに、ボランティア会の活動も活発であり、体験学習のサポートや、まつり・コンサート等のイベントを協働で実施している。こうした活動の様子について、フェイスブック等を活用して積極的に公開している。	14/14

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営に当たっては、所管課と協議を行いながら、協定書等に基づき適切に行い、ミュージアム施設として適切な調査研究、普及啓発、資料の保管等に努めたほか、年間を通して様々な事業を展開した。年間利用者数は約3万人で推移しており、今後も多様な広報媒体の積極的活用、テーマを考慮した事業の実施、地域や学校との連携などにより、来館者層の拡大を図る。</p> <p>当館の特長である体験活動事業については、学校教育と連携した「利用学習」・日常の「随時体験」・様々なイベント体験・他施設での出前講座などを実施し、アンケートを見ても参加者から高い評価を得ている。なお、学校利用数は98校4,835名(市内49校3,645名・利用学習28校1,917名)であった。</p> <p>展示事業については、資料の保存及び常設展示、復元住居及び植生の維持管理に加え、企画展示として「仙山交流」をテーマとし、春・夏・冬の3回開催した。</p> <p>普及啓発事業では「縄文講座」を3回、「週末体験講座」を6回、「発掘調査体験教室」を4回実施し、市民の生涯学習活動の支援を行った。また、より気軽に参加できるイベントとして「縄文まつり」を4回開催し、この中では近隣学校や地域の市民サークルによるコンサートなども取り入れ、来館者・出演者双方の交流を図る場にもなった。</p> <p>事業団の自主財源事業としては「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」、学校・地域連携事業「縄文まるかじり」、野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」の3事業を実施した。</p> <p>今後は、調査・研究を踏まえた一層魅力的な企画と効果的なPRに努めるとともに、SMMA及び歴史ミュージアムネットワーク諸館等との連携を図りながら、ミュージアム都市実現の一翼を担っていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>①遺跡の保存管理のうち復元住居・復元林に関する日常管理においては、復元住居の燻煙処理や修理、植物相やその特徴に関する専門的知識を要し、縄文時代の環境や生活についての調査研究活動が基礎となっている。仙台における縄文時代の様子を体験的に学習できる施設の運営が適切に行われ、遺跡の歴史的価値が保全されることで、更なる活用につながる事が期待される。</p> <p>②展示公開活動では、縄文時代の理解につなげるため仙台と他地域の遺跡を紹介する展示を実施した。年間を通じて内容を変え展示したことにより、各地域の歴史・文化の特徴と、山田上ノ台遺跡出土遺物との類似点や相違を示すことができた。体験活動では、多岐にわたる活動を楽しみ切り口とともにわかりやすく実施し、参加者の満足度も非常に高い。例えば縄文生活体験で石器・土器を用いて調理した料理を復元住居で食べる事業は、縄文時代の理解を深め、同時に子どもたちにとって貴重な体験を提供している。研究報告では、施設活動を通じて得た実験考古学的な知見を紹介しており、全国的に貴重な成果が蓄積されている。</p> <p>③多くのボランティアが活発な活動を行っており、体験活動やイベントでの補助を中心とした多岐にわたる活動は、来館者からも好評を得ており、施設運営に不可欠な存在となっている。特に体験活動は施設活動の根幹となるもので、スキルの高いボランティアによる補助がなければ、施設活動が停滞する。こうした市民活動の拠点としても、良好な運営を行っている。</p> <p>④野外活動・体験活動を中心に学習利用に対応しており、学校側のニーズは高い。縄文・弥生時代について学ぶ小中学校の社会科学学習と組み合わせた利用とともに、教科学習に入る前の小学校低・中学年段階から楽しみながら施設を利用しており、地域のイベント等においても小学生を中心にリピーター利用が多い。歴史・文化学習の素地形成に大きく貢献している点を評価する。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課